

# 北海道ATガイド認定等制度 推薦者向け説明会

## 1. 開会挨拶

北海道経済部観光局観光振興課アドベンチャートラベル担当課長 輿水 昌明

## 2. アドベンチャートラベルについて

## 3. 北海道ATガイド制度概要及び推薦者としてお願いしたい点

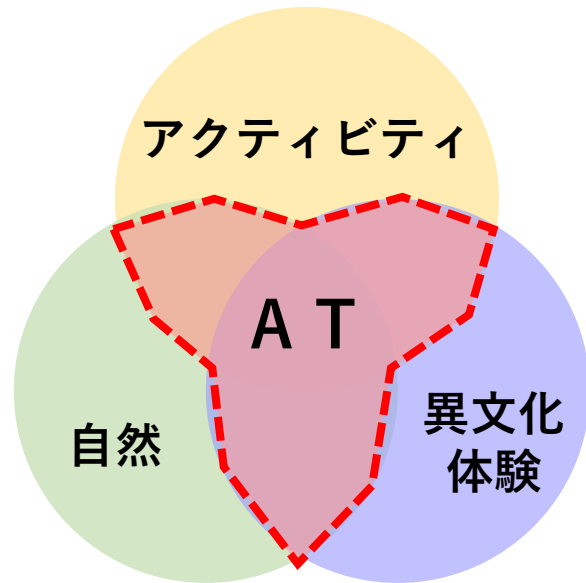
## 4. 本年度の人材育成の取組について

## 5. 質疑応答

令和5年(2023年)7月26日(水) 14:00～  
北海道経済部観光局観光振興課(AT調整)

# アドベンチャートラベル（AT）とは

## ATの3要素



- ・アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上を含む旅行形態
- ・自然の中でのアクティビティや異文化体験を通じて、地域の人々と双方向で触れ合いを楽しみながら、その土地の自然と文化をより深く知ることで自分の内面が変わっていくような旅行形態

**アドベンチャートラベル ≡ アウトドア活動**

アウトドア活動だけでは必ずしもATとはいえない

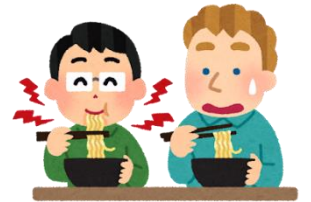
## 従来アウトドア活動

- ・アクティビティそのものが目的
- ・フィールドに来る旅行客に対応
- ・国内客中心、日帰り客
- ・「映え」重視



## アドベンチャートラベル

- ・自己変革（内面の変化）が目的  
⇒アクティビティは変化に至る手段
- ・北海道に入ってから出るまで全てをコーディネート
- ・欧米富裕層中心、長期滞在
- ・本物志向（地域の日常を体験したい）



## ATの5つの体験価値

The Novel and Unique 今までにない ユニークな体験	その他の場所では味わえない、 その地ならではの体験がある。
Transformation 自己変革	体験を通じて、自己が成長・変化していくことを 感じることができる
Wellness 健康であること	旅行前より心身ともに健康になった感覚を 得ることができる
Challenge 挑戦	身体的・心理的にさまざまな意味合いでの 「挑戦」の要素が体験に含まれている
Impact 〇インパクト	体験にあたって、文化や自然に対して インパクトを最低限に抑えられていると 感じられる

# アドベンチャートラベル（AT）とは

- ・ AT市場の規模：**70兆円**を超える
- ・ 主な顧客：**欧米豪の富裕層**を中心に拡大
- ・ 観光消費額：一般旅行者の**約2倍**

(出典：ATTA)



北海道には**豊かな自然や文化**といった**ATの資源が豊富**

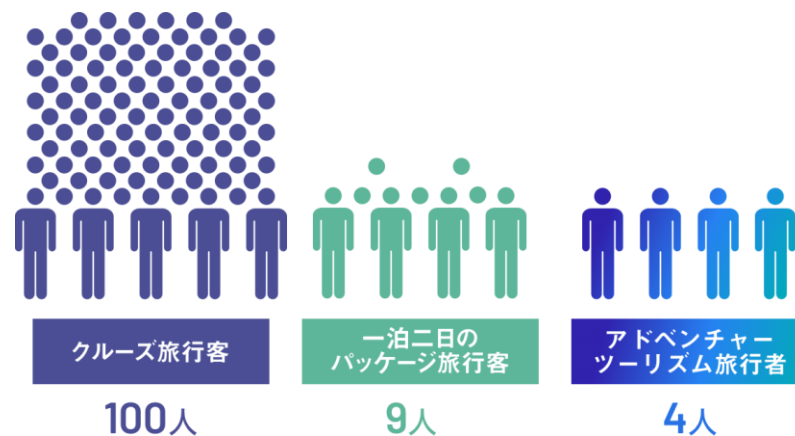


**ATは北海道観光の新たな柱の一つ**

北海道の観光消費額単価で見ると……



10,000USD(約140万円)を地域経済にもたらすために必要な旅行者



出典：Adventure Travel Trade Association

# 北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度の『目的』

北海道の  
価値の  
活用

四季折々の多彩な  
表情を見せる  
美しい自然

固有の動植物が  
多く生息する  
豊かな大地

縄文やアイヌを  
はじめとする  
歴史・文化

季節に応じた  
多様な  
アクティビティ

好循環の  
創出

アウトドアガイド等が  
技術やサービスに応じた対価を得て  
「稼げるガイド」となる

質の高いガイドを安心して利用し  
旅行者が「北海道観光の価値」を楽しむ

世界中の旅行者が全道各地を訪れ  
「地域の経済」が潤う

ガイド制度の  
『創設』  
『育成』

- 「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」の『創設』
  - ・ 要求レベルの高い顧客ニーズに対応
  - ・ 質の高いサービスの提供に対応
- 国際的に評価され、誘客効果の高いものとしてガイド制度を『育成』
  - ・ ガイドや地域の皆様と一体となり常にブラッシュアップ

ATにも対応

# 北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度の仕組み

能力向上  
支援

国際資格等（外国語及びアドベンチャートラベルガイドスタンダード(ATGS)への対応）

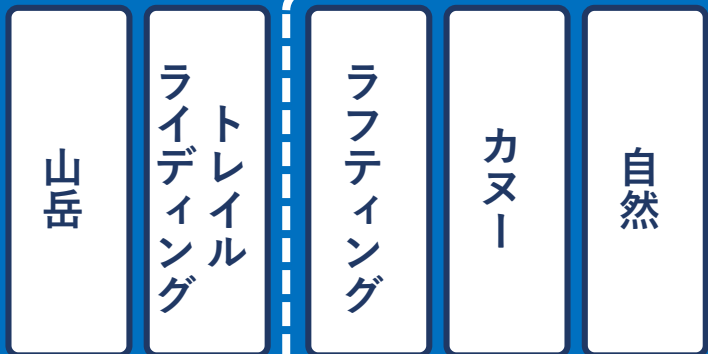
外国語	サステナビリティ	ファーストエイド	安全管理	自然・歴史・文化	顧客・グループ
-----	----------	----------	------	----------	---------

▶ 資格等の取得・受講状況をデータベースで表示（今年度中に開設）

北海道ATガイド認定要件

最低従事日数（200日／2年等 ※分野毎に設定）

第三者による推薦（マスターガイド、民間資格検定員等）



「北海道アウトドアガイド資格」  
（既存の資格制度）



「既存民間資格」  
（拡大する分野）

「北海道アウトドア検定合格認定」  
（筆記試験）

スルーガイド

- ・ATGS 3 分野研修修了
- ・英語資格
- ・旅程管理主任者資格

（新設）

分野毎の認定要件詳細は道ホームページの資料(二次元コード)又は制度要綱をご参照下さい→



# (参考) リンク先 - ご案内ペーパー



## 北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度のご案内

- ・海外の要求レベルの高い顧客ニーズに応え、アドベンチャートラベルにも対応するガイドを道が認定する制度を次のとおりスタートします。
- ・認定後も、国際的に評価されるガイドとして技能向上を図るための研修などを受講できるほか、積極的に道が認定ガイドをPRします。

### 1 対象となる皆様

アクティビティガイド(※裏面10分野)及びスルーガイドの皆様のうち、下記要件1、2、3の全てを満たす方

2 申請受付時期 2023年 7 / 18 (火) ~

3 申請方法 下記お問い合わせ先二次元コードより申請書類をダウンロード後、申請

### 4 認定要件等



北海道アウトドア検定に合格し、知事の認定を受けていること(有効期限内)または

北海道アウトドア資格を有すること

認定区分毎に設定する必要な資格等を有すること ※詳細は裏面参照

認定区分毎に設定する基準を満たし、かつ、推薦者の推薦(スルーガイドを除く)を有すること ※詳細は裏面参照



「北海道アドベンチャートラベルガイド」として道知事が認定!

【制度の概要はこちら】 <https://visit-hokkaido.jp/adventure-travel/traveltrade-press/guide/>



### 5 ガイド技能向上への道の取組

R5年度は道も下記の各種研修(実施時期は別途案内)を実施し、ガイド技能向上を後押し

国際資格等(外国語・アドベンチャートラベルガイドスタンダードへの対応)

外国語	サステナビリティ	ファーストエイド	安全管理	自然 歴史・文化	顧客 グループマネジメント
-----	----------	----------	------	-------------	------------------

## 認定区分ごとの必要資格・基準等 ＜アクティビティガイド＞

分野	ガイドの定義	必要な資格等	基準	推薦者
山岳(夏山)	主に登山道を使用して、利用者を無積雪期に山岳地域に案内し、自然解説や登山技術の指導を行う者	北海道アウトドアガイド資格(山岳(夏山))	申請の日以前の最初の3月31日を目途とする直近2年間※(本表において以下「直近2年間」という。)において200日以上当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	北海道アウトドア資格制度実施要綱第2第1項に規定する北海道マスタースタッフ(以下、「マスタースタッフ」という。)又は同要綱第2第2項に規定する北海道アウトドアガイド資格の認定に係る実務試験の試験官
山岳(冬山)	かんじき・スノーシュー・スキー等を使用して、利用者を積雪期に山岳地域に案内し、自然解説や登山技術の指導を行う者	同(山岳(冬山))		
自然	主に登山道や遊歩道を使用して、利用者に対し自然の案内及び解説を行う者	同(自然)		
カヌー	カヌー又はカヤック等を使用して、利用者を河川や湖沼に案内し、操船技術指導や自然解説を行う者	同(カヌー)(ジュニアガイドを含む)	直近2年間において200以上の当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	
ラフティング	ラフトボートを使用し、利用者を河川に案内する者	同(ラフティング)(ジュニアガイドを含む)		
トレイルレディング	馬を使用して、利用者を中心案内する者	同(トレイルレディング)(アシスタントを含む)	直近2年間において200以上の当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	
サイドカントリー	森林限界を越えない範囲内で、且つ、スキー場に隣接し、スキーリフトやロープウェイの終点から登山高2時間以内の地点より降降り、グレンチまたは一般交通路に容易に戻ることができるエリアにおいて、スキー・スノーボード等のガイドを行う者	公益社団法人日本山岳ガイド協会認定スキーガイドステージI	直近2年間において1200以上の当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	公益社団法人日本山岳ガイド協会の検定員資格の認定を行う者又は上記に相当する者として認められる者
バックカントリー	ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登山できる雪山で、グレンチや一般交通路に隣接しないエリアにおいて、スキー・スノーボード等のガイドを行う者	公益社団法人日本山岳ガイド協会認定スキーガイドステージII		
サイクリング	日本独特の交通事情を把握し、スポーツ自転車の正しい扱い方を体得しており、自転車を使用してサイクリングのガイドを行う者	一般社団法人日本サイクリングガイド協会認定サイクリングガイド(階級レギュラー以上)又は一般社団法人日本サイクリングツーリズム推進協会認定サイクリングガイド(UCTA正会員)	直近2年間において200以上の当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	一般社団法人日本サイクリングガイド協会の検定員資格の認定を行う者又は上記に相当する者として認められる者
スタンドアップパドルボード	スタンドアップパドルボード(以下「SUP」という。)を使用して、河川及び湖沼において、SUPの操作技術及び安全指導やガイドを行う者	一般社団法人日本SUP指導者協会認定公認インストラクター資格(レベル2以上(令和4年(2022年)12月31日までに当該資格を取得した者については、セーフティプログラム(アドバンス)の受講を必須とする。))及び北海道アウトドアガイド資格(自然、カヌー又はラフティングのいずれかの分野)	直近2年間において200以上の当該分野のガイド従事日数を有する若しくは相当の経験を有すると推薦者が認めること	一般社団法人日本SUP指導者協会の検定員資格の認定を行う者又は上記に相当する者として認められる者

※1 案件日から令和5年(2024年)2月31日までの期間においては、「申請の日以前の最初の3月31日を目途とする直近2年間」を「平成30年(2018年)11月1日から令和元年(2019年)12月31日までの2年間」と読み替えることとする。

※2 カヌー、ラフティング、SUPの分野については、分野に係る従事日数を満たすことを認める。

## ＜スルーガイド＞

分野	ガイドの定義	必要な資格等	基準
スルーガイド	アドベンチャートラベルについての十分な理解と北海道(地域)に関する多様な情報を持ち、自身もツアーに参加しつつ、顧客管理を担い、ツアー参加者とアクティビティガイドを含めた地域関係者及び旅行社等との橋渡しを行う者	旅程管理主任者資格(国内/総合)並びに通訳案内士又はCEFR B2相当以上の英語資格を有し、かつ、毎年度知事が指定する研修を修了していること	直近2年間において1000以上のガイド・添乗業務を有する若しくは相当の経験を有すること

お問い合わせ先

北海道 経済部 観光局 AT担当(渡辺、小林) ●受付時間 平日8:45~17:30

TEL011-206-6944

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/500-outdoor/atguide.html>



お問い合わせ先

北海道 経済部 観光局 AT担当(渡辺、小林) ●受付時間 平日8:45~17:30

TEL011-206-6944

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/500-outdoor/atguide.html>



## 推薦者の役割

ATガイド認定希望者から依頼を受けて、以下の観点から推薦の適否を判断する

- ①ガイドとして直近2年間で120日～200日（60日～100日／年）の実働実績
- ②AT顧客に対応できる知識・技術やインバウンド対応経験

北海道観光審議会の有識者や現役ガイド等で構成するワーキンググループにおいて実務経験や能力の判断をどのように行うか議論いただいた結果、**第三者の確認（推薦）**を必要とすべきという結論に至ったもの

**実働実績は目安**であるため、厳密に裏取り（証憑書類の提出等）をする必要は無く、**「日常的にガイドを業として活動している」**ことの判断がつけばOK



### 【OK】

- ・日報はとりまとめていないが週2～3日はガイドをしている（年間52週換算104日～156日）
- ・とりまとめるとガイド日数は190日だったが、事前打合せや訓練時間を合わせると200日を超えインバウンド受け入れ経験も豊富

### 【NG】

- ・夏しかやっていないので年60日程度しか実働がない
- ・主に決まったルートのボランティアガイドしか経験が無い。インバウンドも対応経験が無い。
- ・ガイド業をやるつもりはないが資格が好きなのでとりあえず取っておきたい

※普段付き合いのないガイドさんから推薦依頼があった場合

→基本的には断らず、上記を踏まえ普段の業務内容を聞き取るなどして判断をお願いします。

※推薦者本人がATガイド認定を希望する場合

→上記の基準を満たす場合、**自薦が可能**です。マスターガイド等の推薦者要件を満たす認定証の写しを資料として添付して下さい。（要綱別表2参照）

# (参考) 申請書記載例

別記第1号様式

## 北海道アドベンチャートラベルガイド認定申請書

北海道アドベンチャートラベルガイドの認定を受けたいので、北海道アドベンチャートラベルガイド認定等要領第2の規定により申請します。

北海道知事様

令和5年7月18日

ふりがな	ほっかい たらう		
* 申請者名	北海 太郎		
ふりがな			
* 住所 【非公開】	〒060 - 8588 札幌市中央区北3条西6丁目		
ふりがな	ほっかい どう		
勤務先・所属先	北海道		
電話番号 (公開する番号)	011-206-6944	* 電話番号【非公開】 (自宅・個人携帯)	080-1234-5678
* E-mailアドレス	hokkai@hokkaido.com		
* 認定を受けようとする ガイド分野 (申請分野にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 山岳 (夏山) <input type="checkbox"/> ラフティング <input type="checkbox"/> サイクリング <input type="checkbox"/> 山岳 (冬山) <input type="checkbox"/> トレイルライティング <input type="checkbox"/> スタンドアップパドルボード <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> サイドカントリー <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> カヌー <input type="checkbox"/> バックカントリー <input type="checkbox"/> スルーガイド		
* 申請者の氏名及び 住所が記載されている書類 (運転免許証等)【非公開】	交付年月日	有効期限(年月日)	書類区分・名称
	令和5年4月1日	令和8年4月1日	運転免許証
* 上級救命救急・WJFA等の 能力を証するもの	交付年月日	有効期限(年月日)	書類区分・名称
	令和4年4月1日	令和7年3月31日	上級救命講習
* アウトドア検定認定証又は 北海道アウトドア資格認定証	交付年月日	有効期限(年月日)	書類区分・名称
	平成28年10月1日	令和8年3月31日	北海道アウトドアガイド(自然)
* 要領別表1に定める 資格等の証明書類 (認定を受ける分野に必要な資格)	交付年月日	有効期限(年月日)	書類区分・名称
	平成28年10月1日	令和8年3月31日	北海道アウトドアガイド(自然)
	年 月 日	年 月 日	
	年 月 日	年 月 日	
	年 月 日	年 月 日	
	年 月 日	年 月 日	
* 要領別表2に定める 基準若しくは推薦者 (直近2年間のガイド従事日数)	対象期間(自室)	申請ガイド分野及び日数	左記を証明する推薦者氏名
	令和3年4月1日 ~ 令和5年3月31日	自然 / 250日	北野 ガイド
	年4月1日 ~ 年3月31日	/ 日	
	年4月1日 ~ 年3月31日	/ 日	

(備考) 記入欄が不足する場合は、別紙(任意)を作成し添付してください。

\* 記入必須

英語によるガイド能力	<input type="checkbox"/> 上級者 (ビジネスレベル) Advanced/Fluent <input checked="" type="checkbox"/> 中級者 (日常会話レベル) Intermediate <input type="checkbox"/> 初級者 (簡単な単語のやりとり可) Beginner		
保有する英語資格等	交付年月日	名称	左記の実施主体
	令和2年10月1日	英検2級	日本英語検定協会
英語コミュニケーション 力に関する研修	研修期間	修了した研修の名称	左記の実施主体
	令和3年8月1日 ~ 令和3年12月15日	AT英語講座(上級)	北海道観光振興機構
サステナビリティに 関する研修	研修期間	修了した研修の名称	左記の実施主体
	令和4年10月31日 ~ 令和4年11月1日	北海道サステイナブルガイド ディングトレーニングプログラム	北海道
サステナビリティに 関する国際資格等	交付年月日	資格の名称	左記の証明主体
	年 月 日		
安全管理/自然・歴史・文化/顧客・グループに関する研修	研修期間	研修の名称	左記の実施主体
	令和4年8月11日 ~ 令和4年8月12日	北海道ATガイドフィールド トレーニング	北海道
		修了後の試験合格証	
	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
HPアドレス	https://www.hokkaido.○×△.co.jp/		
Facebookアカウント			
YouTubeアカウント			
Instagramアカウント			
Twitterアカウント			
LINEアカウント			
その他のSNSアカウント	サービス名称	アカウント名	
* 旅行者等への自己紹介 (キャリア・受賞歴等) ※日本語 200文字・5行以内	平成25年(2013年) ガイドとして独立 ○×ガイド社設立 平成27年(2015年) インバウンド受入を始める 平成30年(2018年)9月 全国野鳥写真コンテスト 金賞		
	※ 記載がない場合、上記日本語による記載内容を機械英訳し、公開することを承認したものととして取り扱うことができます。		
* 旅行者等へのアピール (得意分野・フィールド等) ※日本語 200文字・5行以内	こんにちは！私は札幌市を拠点として、北海道の自然や文化を知ってもらいたいためガイドを行っています。特に野鳥観察が好きで世界の様々な野鳥ファンと見かけた鳥の報告会を行っています。見たい鳥がいる人は是非一度ご相談下さい！		
	※ 記載がない場合、上記日本語による記載内容を機械英訳し、公開することを承認したものととして取り扱うことができます。		
* 旅行者等へのアピール (得意分野・フィールド等) ※英語 100words・5行以内	この申請書及び添付書類の記載事項は、事実と相違ありません。また、この申請書の記載事項及び写真データ(太枠で囲んだ【非公開】部分を除く)について、知事が公開することに同意します。		
	* 右項を確認のうえ、下記にチェックしてください。 <input checked="" type="checkbox"/>		

注) 申請者の写真(申請前3ヶ月以内に影した無帽、正面、上三分身、無背景で鮮明なもので、縦3センチメートル、横2.5センチメートル(縦560px×横420 px程度)のものを添付のこと。

\* 記入必須



# (参考) 推薦書記載例

別記第2号様式

令和5年7月14日

北海道知事 様

住 所 札幌市中央区北3条西7丁目

氏 名 北野 ガイド

## 北海道アドベンチャートラベルガイド推薦書

次の者は、「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度実施要綱」第3第3項第1号エに定める技術基準に該当する者と認められますので、推薦します。

記

### ■ 推薦の対象となるアクティビティガイド

氏 名	北海 太郎	
認定を受けようとするガイド分野	<input type="checkbox"/> 山岳(夏山) <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> ラフティング <input type="checkbox"/> サイドカントリー <input type="checkbox"/> サイクリング	<input type="checkbox"/> 山岳(冬山) <input type="checkbox"/> カヌー <input type="checkbox"/> トレイルライディング <input type="checkbox"/> バックカントリー <input type="checkbox"/> スタンドアップ パドルボード

### ■ 推薦者の経歴等

勤務先・所属先	NPO法人 北海道ATガイドの会
経歴・保有資格等	令和2年6月1日 北海道マスターガイド 認定分野 自然 認定番号 第00号

	氏 名	連絡先(電話番号)
本件責任者	北野 ガイド	080-XXXX-XXXX
担 当 者	同上	同上

# ATガイドに認定されたら

## 広報

- ・北海道観光の現在のテーマは**高付加価値化**  
→プロモーション事業でATガイド制度を活用予定
- ・**ATWS開催と合わせたATガイド制度プロモーション**

## 環境整備

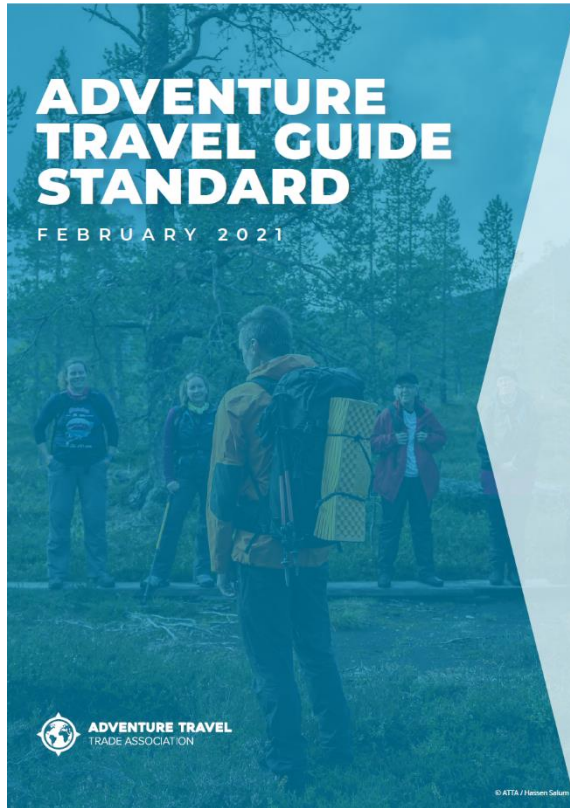
- ・本年度**ATガイドデータベース**（英語対応）を整備  
→公的機関による海外向けのガイド個別紹介
- ・ガイド個別の**顧客アンケートフォーム**を整備  
→自身のガイディングの振り返り、他のガイドと改善ポイント共有が簡単に

## 道事業

- ・AT商品造成等において認定ATガイドを活用検討中
- ・北海道観光振興機構と連携した**AT人材育成研修実施**

- ・本制度は施行後3年間（令和5年度～令和7年度）を試行期間と位置づけ
- ・運営を通じて必要な研修等の取組や制度自体の改善等を実施  
→ATガイドを中心にヒアリングを予定

# ATGS(Adventure Travel Guide Standard)とは



- ・ ATに関する国際団体であるATTA(Adventure Travel Trade Association)が定めるガイド基準
- ・ ATTAがガイドを認定するのではなく、各地の実態に応じてそれぞれが基準を作るための基準

## ATガイドの中核的能力(Core Competencies)

- ・ **持続可能性**  
(Sustainability)
- ・ **技術的能力とファーストエイド**  
(Technical Skills & First Aid)
- ・ **安全・リスク管理**  
(Safety & Risk Management)
- ・ **顧客・グループ管理**  
(Customer Service & Group Management)
- ・ **自然・歴史・文化の解説**  
(Natural & Cultural History Interpretation)

## 各能力に対応した研修を実施し、アドベンチャートラベラーの持つ知識・考え方を身につける

### 【持続可能性】

- ・ GSTCベースのJSTS-Dを教材とした研修
- ・ LNT(Leave No Trace)トレーナー相当研修

### 【技術的能力とファーストエイド】

- ・ WFA (Wilderness First Aid/野外救急法) 国際資格取得に向けた研修

### 【その他】

- ・ インタープリテーション能力やATツアー催行時の他ガイドとの連携等をテーマとした研修